

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第56号

発行:2017年7月17日
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
副住職 天野英昭
〒739-0147 東広島市八本松西6丁目10番1号
TEL・fax(082)428-0160・(082)428-1360

盆会法座

日時 8月1日(火) 9:00~15:00頃

朝席 9:00~11:30 昼席 13:00~15:00

ご講師 山下瑞円 師(岡山県高梁市成羽町 浄福寺副住職)



第69回歎異抄輪読会

日時 7月27日(木) 19:00~20:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

磯松天龍寺墓苑並びに合同墓(永代供養墓)合同参拝

日時 8月12日(土) 18:00~19:30

場所 磯松天龍寺墓苑



※ 大変お忙しい時期とは存じますが、多数のご参拝を念じ申し上げます。
但し、天龍寺墓苑での合同参拝は、関係者の方のみとさせていただきます。

★天龍寺仏教壮年会 月例会 7月31日(月) 19:00~20:30

天龍寺清掃奉仕に対しまして感謝申し上げます。

先月の6月10日(土)に天龍寺にご関係をいただいております天龍寺仏教婦人会のみなさまによる清掃奉仕をしていただきました。

仏教婦人会のみなさまには、本堂内も含め清掃をしていただきました。毎年、お忙しい中おいでいただき、清掃奉仕にご参加いただきましたこと書面をお借りしまして感謝申し上げます。

還暦を迎えるに当たり、しみじみ思うこのごろです。



勝った、負けた・得した、損した・役に立った、役に立たなかった・今日は身体の調子がよい、今日は調子が悪い等の比較の世界に生きている故に、その様な思いに一喜一憂し、さらに私のように老・病・死が迫り、「体力が無くなった。目が見えにくくなった。腰が痛い。手が上がらなくなった。」等と言い、毎日同じ生活を繰り返し、さらに限りある自分の命に歎き・悲しみ・絶望しながら死んでいくであろう私であると思う事です。また、還暦を迎えるこの頃、ふと「自分の人生は何だったか。自分の歩いて来た道は、正しかったのか。これから歩む道は正しいのか。」と自問自答することがあります。

以前、寺報にも書かせていただきましたが、オウム真理教に入信された信者の方々の中には、一般的な価値観で言えば、高学歴の方々が入信されていました。「何故？」という疑問があり、ある方の本の中で疑問が解けた事がありました。高学歴で入信された方々は、幼き時から親・先生・周りの方々の言うとおりに勉学に励み、偏差値の高い学校に進学し、医者・上場企業等に進まれました。その先にあったのは、彼らが思い描いたものとは違っていた等と本に書かれていました。さらに彼らを入信させる決定的な理由は、「何のために勉強に励み、何のために働き、何のために生きる等」の人間としての根源的な問いに誰も応えてくれず、ただ一人麻原彰晃氏だけが、その問いに答えてくれたそうです。筆者が「人間は、本当に喉が渴いたら、どぶ水と分かっているながら、その水を飲んでしまう弱さがある。」等と書かれていますが、その通りだと思ったことであります。

自分の人生を振り返り、「あの時この様にしておけばよかった。もっと若い時に勉強をしておけばよかった。」等と思う事もありますが、仮にその様にしていても今の自分と差異はあまりなかったと思う事もあります。

自然界に目を向けますと様々な花があり、人間を花にたとえると人間にも様々な花があると思う事です。しかしながら、若い時から私は、いつも絢爛豪華な花を咲かせたいと願ってきました。ただ、先般の寺報にも書かせていただきましたが、それぞれの植物で花が咲く時期は、限られています。故に私の人生もいつも花を咲かせようとする事に、自分自身の傲慢さがあるのかとも近頃感じております。

しかし、花が咲けば枯れて散っていかなくてはなりません。残酷な言い方になり、ご理解・ご容赦をいただければありがたいと存じますが、よく耳にする言葉であり、私自身もその様な事を願っておりますが、「だれの迷惑もかけずに逝きたい。」

ただ、お寺に帰らせていただき8年が過ぎようとしておりますが、この8年間に多くの方のお葬儀のご縁をいただきました。その経験から申しますと多くのご縁をいただいた方々は、家族等のお世話をいただき、自分の願いとはほど遠い終末を迎えられ、この世を去られていかれたと認識しております。自然界の営みの如く、人間も枯れる時には枯れてきて散っていかなくてはならないと自分に言い聞かせる事もあります。

数年前、輪読会の時にご教示をいただいたことですが、増谷文雄師ますたにぶんゆうの言葉を引用され「私たちは、理想等にとらわれ苦しみ・悩む存在である。理想通りにいかない自分・人生に目覚める事が大切。」等であると言われた事がありました。ご教示の如く、理想・願い通りにならないのが、自分であり、人生であり、大変難しい事ですが、現実を粛々と受け止めながらの人生かもしれないと考えさせていただくこともあります。

※(先般の安居会の法座の資料をこれから数回に渡り、掲載させていただければありがたいと存じます。ご理解をいただきますようお願い申し上げます。)